

# 生徒の仮説形成力を育成する指導方略の開発

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 理数・自然科学系（理科）

五十嵐 智裕

本研究では、「仮説を発想し、表出し、吟味することができる生徒」の育成を目的として授業実践を行った。仮説形成を支援する手立てを検討した結果、①変数を意識する段階の設定、②仮説の定型文の活用、③仮説検証活動の3点で効果が見られた。①については、仮説形成の基盤として変数に着目させる段階を設定したことで、仮説を発想できる生徒の増加が確認できた。②については、定型文を用いることで、多くの生徒が自分の考えを仮説として表出できるようになった。③については、活動を通して、複数の仮説を意識しながら検証する姿が見られ、仮説を吟味しようとする態度がうかがえた。しかし、手立ての有効性が十分に発揮できない生徒が見られたため、吟味する力の育成には課題が残った。以上のことから、仮説の発想および表出に対する手立ての有効性が示唆された一方で、仮説を吟味する力を高めるためには、さらなる支援の工夫が必要であることが明らかになった。